

# 海軍 青年たちの戦争

## —5名の足跡をたどって—

### 開催主旨

本展は、海軍に志願し、戦傷病者となった5名の青年の半生をみつめるものです。

勇ましい軍人の姿、海原や大空に憧れを抱き海軍を志願した青年たちは、入団後の訓練を経て戦場へ赴いていきました。そこでどのような体験をし、何を思い、終戦を迎えることになったのか、5名の証言や手記、資料を通して紹介します。

また、海軍には、水兵、航空兵、整備兵、機関兵など、さまざまな兵種があり、本人の適性や希望によって配属が決まりました。兵種によって特徴的な戦傷病、衛生機関や傷病兵の収容体系、海軍病院などについても解説します。

主 催	しうけい館(戦傷病者史料館)
会 期	令和6年6月4日(火)~9月1日(日)
会 場	しうけい館 2階企画展示室
入 館 料	無料
開 館 時 間	10:00~17:30(入館は17:00まで)
休 館 日	毎週月曜日・7月16日(火)・8月13日(火) ※7月15日(月)、8月12日(月)は開館
内 覧 会	令和6年6月4日(火)10:00~11:00 ※報道関係者向け・要申込
問い合わせ先	しうけい館 TEL:03-3234-7821 担当:半戸

## 展示構成

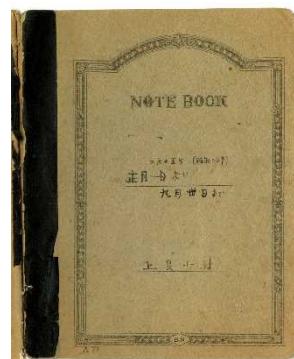
### 展示 I. 5名の青年 戦傷病者の半生をたどる

展示 I では、5名の戦傷病者の、入団の動機、海軍での受傷病と治療の経緯、戦後の暮らしについて寄贈資料とともに紹介します。



#### 句集「卯の花句集」

この俳句集は、両目失明となつた方がまとめたもの。14歳で親に内緒で海軍を志願した。1945年、戦艦勤務の待機中に空襲にあい、両目と肩、胸を負傷した。戦後に鍼灸マッサージの免許を取得し、福祉にも力をつくした。



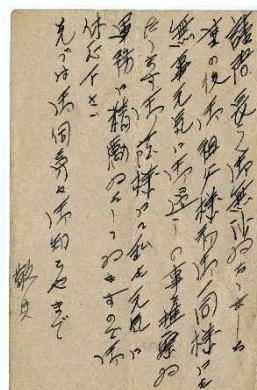
#### 日記帳

この日記帳の持ち主は、1943年に海軍へ入団。小笠原諸島父島の砲台付きの任務を命じられた。米軍の空爆により右手と右足を負傷。入団前は弁護士になりたいという夢があったが、戦後は新聞記者として働いた。



#### 結婚写真

この結婚写真は、海防艦に乗船中に攻撃を受け、片腕を失つた方のもの。15歳で海軍へ志願し、18歳で右腕を失う。片腕がないことでお見合いを何度も断られたことがあったが、健常者に負けないよう仕事に励み、畳表の職人になった。



#### 軍事郵便葉書

この葉書は、ミッドウェー海戦で負傷した方が病院から家族に送ったもの。整備兵として空母に乗艦していた時に、攻撃にあって全身に大やけどをおった。除隊後は役所勤務を経て実家の農業をつぎ、家族のために戦争体験を書き残した。

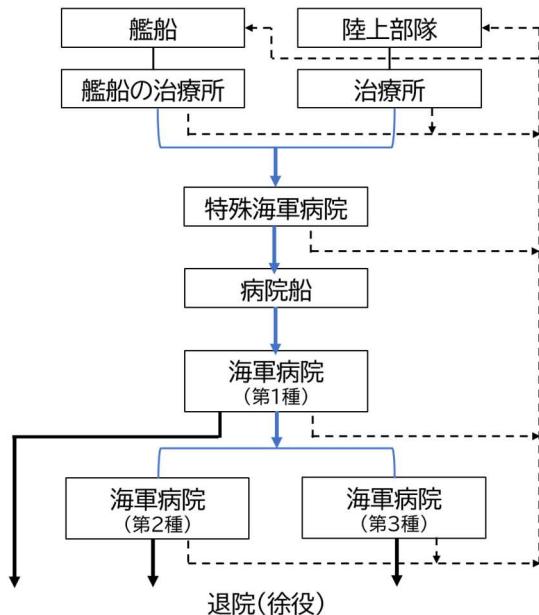


#### 肺のレントゲン写真

このレントゲン写真は、通信兵だった方のもの。海軍にあこがれて少年兵に志願、レイテ沖海戦では助かったものの、疲労のために結核にかかってしまった。長く療養生活を続け、片肺は機能しなくなっていたが、障害者福祉に尽力し続けた。

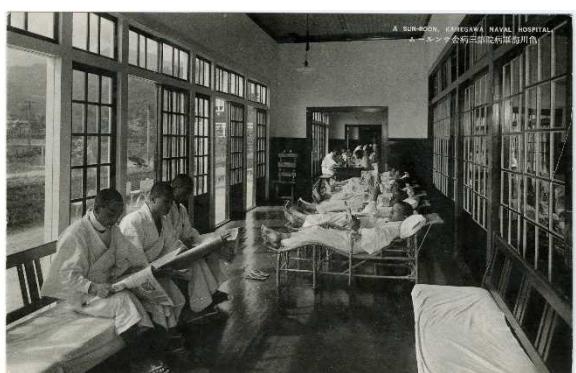
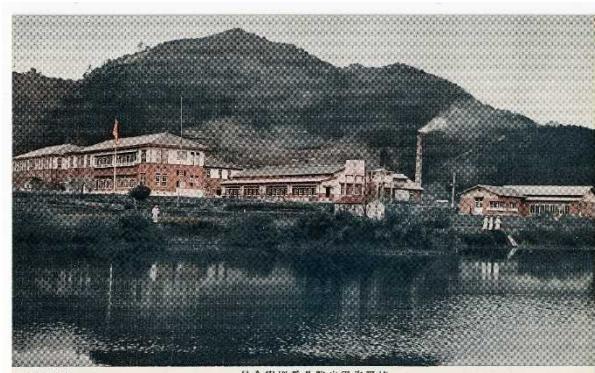
## 展示Ⅱ. 海軍の負傷兵の救護と衛生機関

展示Ⅱでは、海軍の傷病兵の後送体系や、病院の種類、機能について解説し、配属された軍医の証言、手記などから、海軍での傷病兵の治療、戦争での体験などについて紹介します。



海軍の傷病兵の後送体系(図)

原隊復帰を基本とし、重症や長期の療養が必要とされた者は内地の海軍病院へと運ばれた。



海軍病院(上)／治療・療養中の傷病兵(下)

## 映像上映

内容:企画展に関連する映像を上映します。

場所:しょうけい館 2階シアター

※団体プログラム等によって、上映内容を変更・休止する場合があります

	映像タイトル	時間
10:00 ~ 11:00	片手のハンディを乗り越えて★	18分
	戦病者として生きる★	16分
	国のために生きて～元海軍軍医中尉の記憶～	23分
11:00 ~ 12:00	字を書く手を受傷して★	11分
	両眼失明が切りひらいた戦後の人生★	22分
	海軍看護兵 若き日の記憶	15分
	障害を超えたおおらかさ	10分
12:00 ~ 13:00	片手のハンディを乗り越えて★	18分
	ミッドウェー海戦で負傷して★	18分
	二人三脚、商売繁盛	22分
13:00 ~ 14:00	字を書く手を受傷して★	11分
	両眼失明が切りひらいた戦後の人生★	22分
	支え合い ともに歩む	16分
	生と死に向かい合った2時間	10分
14:00 ~ 15:00	ミッドウェー海戦で負傷して★	18分
	戦病者として生きる★	16分
	元海軍薬剤少尉の記憶	19分
15:00 ~ 16:00	字を書く手を受傷して★	11分
	両眼失明が切りひらいた戦後の人生★	22分
	練習機「赤トンボ」の特攻隊	16分
	海軍少年電測兵15歳の受傷	10分
16:00 ~ 17:00	片手のハンディを乗り越えて★	18分
	戦病者として生きる★	16分
	蟻地獄からの脱出	17分

・★のついた証言者の寄贈資料は、本企画展で展示します。

・各証言映像は上映時間以外でも、情報検索端末で視聴できます。

# つづ 綴られた思い —戦争を知らない世代に伝えたい体験と記憶—

## 開催主旨

今年は終戦 80 年となる節目の年であり、戦争体験を後世に伝えていくことは、ますます重要な課題となりつつあります。1945(昭和 20)年 8 月 15 日の終戦から長い年月が経過し、戦傷病者やその妻の体験を直接聞くことが難しくなってきました。それでも、戦傷病者が遺していく言葉や体験記から私たちは多くのことを学ぶことができます。

本展では、戦傷病者やその妻の記した体験記から、戦中・戦後の労苦を伝えます。一人ひとりの戦中・戦後の労苦に焦点をあて、体験記のほかに関連する実物資料を展示します。

戦争を体験していない世代から、その先の世代へ。戦傷病者とそのご家族が遺してくれたものを、私たちが知り、そして次の世代へとつないでいくことの大切さについて考えてみませんか。

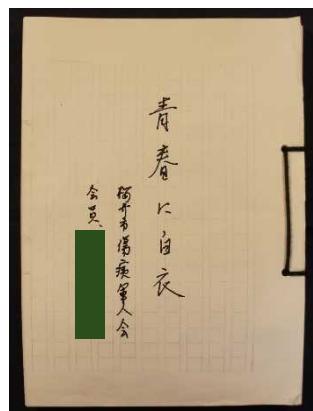
主 催	しょうけい館(戦傷病者史料館)
会 期	令和 7 年 3 月 4 日(火)~6 月 1 日(日)
会 場	しょうけい館 2 階企画展示室
入 館 料	無料
開 館 時 間	10:00~17:30(入館は 17:00 まで)
休 館 日	毎週月曜日・5 月 7 日(水) ※5 月 5 日(月)は開館
問い合わせ先	しょうけい館 TEL:03-3234-7821 担当:半戸 取材を希望される際は事前に連絡をお願いします。

※無断転載禁止

## 展示構成

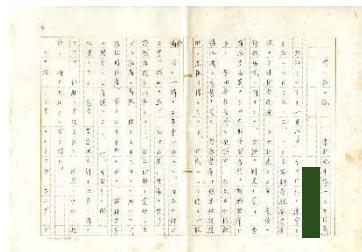
### 展示 I. 戦傷病者とその妻が記した体験記

戦傷病者が記した体験記を展示し、一人ひとりの戦中・戦後の労苦を紹介します。体験記のほかに、ご本人の実物資料や写真など寄贈資料も展示します。



#### 「青春に白衣」

この体験記は、1938年に中国での戦闘で左腕と肘を負傷した方のものです。徴兵時の心情、戦地で炎天下の行軍、不衛生な環境の中での軍隊生活で弾丸に当らなくても命を落とす戦友がいたこと、受傷、そしてその後を生きぬいてきたことが記されています。



#### 「思い出の記」

この体験記は、1942年に空挺要員選抜の身体検査を受けた後の待機中、空爆にあい、右足を負傷した方のものです。将校として戦地に赴任し、戦地で過ごした一年半の体験、受傷しなければどういう運命を辿ったのかに思いを巡らせていましたが記されています。



#### 「ニューギニア戦記」

この体験記は、1942年に、ニューギニアのジャングルの中で連合軍の攻撃にあい、右足を負傷した方のものです。戦闘体験と受傷時の詳細が克明に記されているほか、現地の人に親切にしてもらったことや戦友とのエピソードなどもあり、厚さ10センチにもなる大作です。



#### 「乙女戦記」

この体験記は、1945年の沖縄戦で受傷した当時18歳の少女だった方が記したもので。戦争によって片手を失ってしまい、生きる気力も失せてしまうほど辛く悲しい日々を過ごしてきました。そんな中でも前を向き、懸命に生きようとしたことがうかがえる体験記です。



#### 「大事な私の覚え書」

この体験記は、1939年ノモンハン事件で左眼を失明してしまった方のものです。戦後、世の中が安定していく中で、戦争体験を語ることをおそれず、忘れてはいけない、戦争を知らない世代に伝えなくてはいけないという思いで、体験記を3冊まとめました。

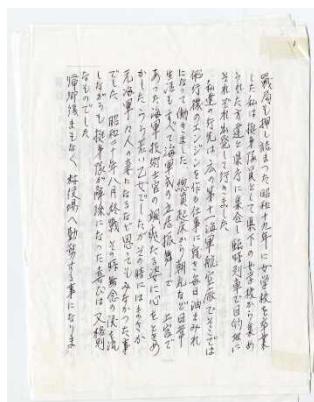


#### 「シベリア珪肺 ソ連抑留の後遺症」

この体験記は、1965年にシベリア抑留中の鉱山労働が原因で珪肺を発症してしまった方のものです。闘病生活の中で、同じ病気で苦しむ患者のためにと、療養生活の送り方や恩給請求の手助けとなる情報も多く記しています。

### 「朝ドラゲゲの女房を見て」

この体験記は、1946年に戦傷病者と結婚した妻の体験記です。夫は1945年に右足切断するという大きな障がいを抱えていました。自営業の夫を支えるために、ともに懸命に働き、経済的な苦難も多く経験しました。「ゲゲの女房」を観た時に、同じ戦傷病者の妻としての思いを記すために筆をとりました。



### 「傷痍の夫と歩んだ五十余年」

この体験記は、1947年に戦傷病者と結婚した妻の体験記です。夫は1944年に負傷し、戦後も大きな手術を経験していました。夫を支えながら、家族の介護、子育てなど家のことと一緒に夫と一緒に歩んできたことを記しています。

## 展示II.団体のまとめた体験記

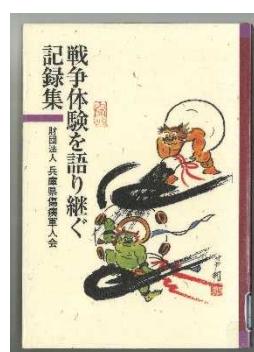
展示IIでは、団体がまとめた体験記を紹介します。

日本傷痍軍人会や日本傷痍軍人妻の会など、戦傷病者の団体が、自分たちの体験を伝えようと会員に呼び掛けてまとめられた体験記も多くあります。個人でまとめた体験記よりも文章は短いも傾向にありますが、特に残しておきたかった体験と思いが記されています。

これらの体験記を、しょうけい館で読む方法も合わせて紹介します。



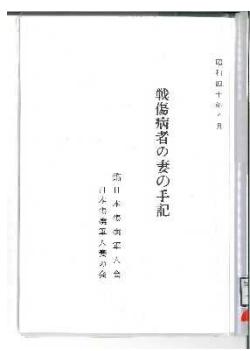
『戦傷病克服体験記録』



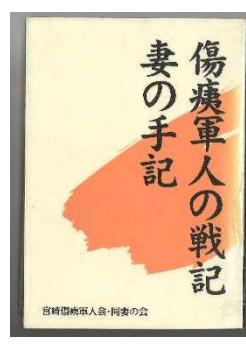
『戦争体験を語り継ぐ記録集』



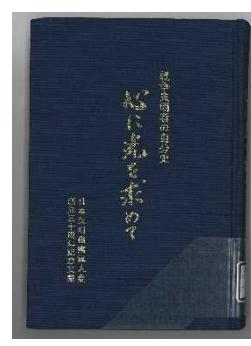
『二人三脚 傷痍の夫とともに』



『戦傷病者の妻の手記』



『傷痍軍人の戦記 妻の手記』



『心に光を求めて』

## 映像上映

内容:企画展に関連する映像を上映します。

場所:しうけい館 2階シアター

※団体プログラム等によって、上映内容を変更・休止する場合があります

	映像タイトル	時間
10:00 ～ 11:00	体験記をまとめて知った父の想い★	22分
	負傷した者同士で支え合った半世紀	26分
	療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～	10分
11:00 ～ 12:00	母に支えられて★	31分
	シベリア珪肺を抱えながら	18分
	二人で一人、傷痍軍人の妻として	10分
12:00 ～ 13:00	体験記をまとめて知った父の想い★	22分
	負傷した者同士で支え合った半世紀	26分
	療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～	10分
13:00 ～ 14:00	母に支えられて★	31分
	シベリア珪肺の苦しみ	18分
	二人で一人、傷痍軍人の妻として	10分
14:00 ～ 15:00	体験記をまとめて知った父の想い★	22分
	負傷した者同士で支え合った半世紀	26分
	療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～	10分
15:00 ～ 16:00	母に支えられて★	31分
	シベリア珪肺を抱えながら	18分
	二人で一人、傷痍軍人の妻として	10分
16:00 ～ 17:00	体験記をまとめて知った父の想い★	22分
	負傷した者同士で支え合った半世紀	26分
	療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～	10分

・★のついた証言者の寄贈資料は、本企画展で展示します。

・各証言映像は上映時間以外でも、情報検索端末で視聴できます。